

芳ヶ平湿原



## ● 芳ヶ平湿原ってどんなところ？

芳ヶ平湿原(標高1,832m)には、私たちのすんでいるところでは見られない植物がたくさんあります。代表的なのは、白くて丸い綿毛が特徴的なワタスゲです。湿原一面のワタスゲが風に吹かれてゆれるようすはみごとです。サギスゲという、ワタスゲによく似た植物も生育していますので、見つけてちがいを観察してみましょう。ほかにも、季節ごとにいろいろな花が咲きます。16、17ページを参考に調べてみましょう。秋には、まわりの山が色とりどりに紅葉しますが、湿原も紅葉します。これを「<sup>くさもみじ</sup>草紅葉」と呼んでいます。

また、湿原には「<sup>ちとう</sup>池塘」と呼ばれる池のようなものがたくさんあり、モリアオガエルやクロサンショウウオがくらしています。姿を見つけるのはむずかしいかもしれませんが、初夏の頃なら卵を見つけやすいので、池塘のまわりを探してみましょう。夏の子育ての時期にはカルガモの親子が木道を歩いてわたっている姿もよく見られます。

### ♪ 見つけてみよう!

#### 観察できる植物



ワタスゲ



サギスゲ



モウセンゴケ

#### 観察できる動物



モリアオガエル



クロサンショウウオ



クロサンショウウオの卵

## 🔍 観察のポイント

湿原の植物や池塘の生きものを観察するときは、しゃがんで近くで見てみましょう。このとき、木道から落ちないように気をつけましょう。クロサンショウウオが泳いでいるところや、モウセンゴケに昆虫がつかまっているところを見つけられるかもしれません。

ミズゴケが生えている場所があったら、やさしくさわってみてください。湿っていてふかふかとやわらかいのが分かります。

チャツボミゴケ公園と3つの池

チャツボミゴケ公園全体図



3つの池の位置図



## ● チャツボミゴケ公園ってどんなところ？

チャツボミゴケ公園(標高1,250m)では、むかし、鉄鉱石が掘られていたなごりを見ることができません。鉄鉱石の採掘は、坑道<sup>こうどう</sup>を掘らずに地表<sup>ちてつ</sup>をけずる露天掘り<sup>ろてんぼり</sup>という方法で行われていました。掘られた鉄鉱石は空中ケーブルで運ばれ、さらに鉄道<sup>てつどう</sup>で京浜地区<sup>けいひん</sup>などの工業地帯へと送られていました。「群馬鉄山<sup>ぐんまてつざん</sup>」としての役目を終えた後は、公園としてチャツボミゴケが育ちやすい環境が整備され、現在は国内最大のチャツボミゴケ群生地となりました。

チャツボミゴケは、酸性の水が流れるところに生育しますが、流れが速すぎると流されてしまい大きくなることができません。また、大きくなりすぎても流れを受けやすくなって流されてしまいます。そして、流れついた先が酸性の水でないとそのまま死んでしまいます。穴地獄は、これらの条件がそろっている環境であるため、これほどたくさんのチャツボミゴケがいきいきと育ち、緑のじゅうたんをしきつめたような美しい姿を見せてくれるのです。

また、チャツボミゴケ公園の近くには「水池<sup>みづいけ</sup>」「大池<sup>おおいけ</sup>」「平兵衛池<sup>へいべえいけ</sup>」という3つの池があり、チャツボミゴケ公園から登山道を歩いて3つの池をめぐることができます。

水池(標高1,348m)は、ミズナラの森の中にある、神秘的な雰囲気<sup>しんびてき ふんいき</sup>の小さな池です。

大池(標高1,478m)は、広々とした大きな池で、6~7月頃には池のほとりに立っている木の上に白い泡状のものを見つけることができます。モリアオガエルの卵です。

平兵衛池(標高1,539m)にもモリアオガエルが生息していて、水辺をそっと観察すると、オタマジャクシが泳いでいるところを観察できます。水辺の草むらには陸にあがったばかりの小さなモリアオガエルがかくれていることがあるので、注意しましょう。また、平兵衛池には、地元<sup>じよん</sup>に古くから伝わるむかしばなしがあります。

### 📖 学習のポイント

チャツボミゴケ公園を流れる川の水が強い酸性のため、チャツボミゴケが大群落をつくっていますが、芳ヶ平湿地群の中のほかの場所でも、池や川の水はほとんどが酸性です。

リトマス試験紙を使っていろいろな場所で調べてみましょう。

### 平兵衛池の龍神伝説

むかし、草津温泉の湯畑の滝の下に大きな宿屋があり、湯本平兵衛という人がいました。平兵衛の娘が山にワラビをとりに行ったときに、奥の方にきれいな沼があって、その水を飲んで髪をすくと大きな波にひと飲み<sup>ひとのみ</sup>にされてしまいました。

平兵衛が娘を助けに行くと、池のまん中から龍と角のはえた娘が出てきて、「私は池の主とくらします」と言いました。その池に入った日を娘の命日として、平兵衛は毎年池に出かけて行ったことから「平兵衛池」と呼ばれるようになったそうです。(※ほかにもいくつかの説があります。)



六合かるた

## 2 エリアガイド

### 白根山・湯釜



### 草津温泉ができたのは火山のおかげ?

草津白根山に降った雨が地下にしみこみ、火山ガスと混じりながら地中を流れていって、地上にわき出したところが「草津温泉」です。この火山ガスが多すぎても少なすぎても、今の草津温泉はできなかつたろうと考えられています。

今でも火山が活動しているからこそ、草津温泉を楽しむことができるのです。



草津温泉湯もみ